

Shinwa Report

Joining the World, Joining the Future

第 **72** 期

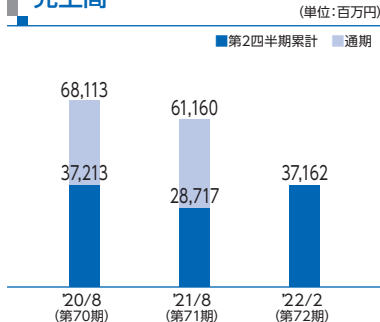
中間報告書

2021年9月1日～2022年2月28日

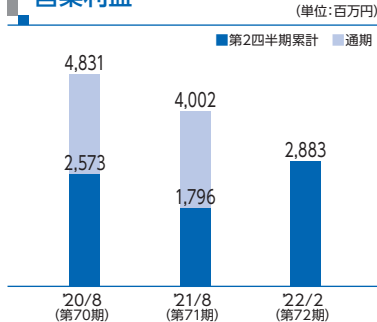
CONTENTS

決算ハイライト	1
トップメッセージ	2
トピックス	3
業績の状況	5
財務情報	7
会社情報	9
株式情報	10

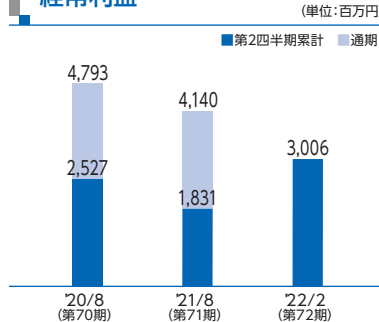
売上高



営業利益



経常利益



売上高

37,162百万円
前年同期比 29.4%増

経常利益

3,006百万円
前年同期比 64.2%増

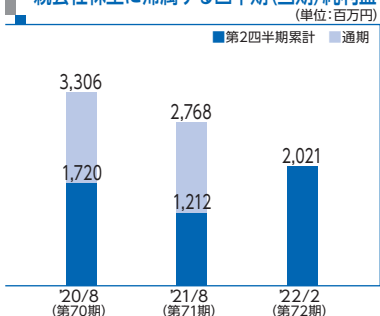
親会社株主に 帰属する 四半期純利益

2,021百万円
前年同期比66.7%増

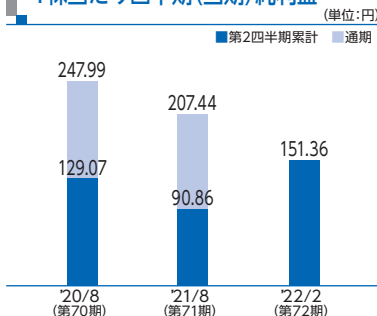
業績のポイント

- 1 主に中国において日系自動車メーカー向け大型プロジェクトの売上が大きく寄与したことにより、売上高は前年同期比29.4%増となりました。
- 2 販売費及び一般管理費は増加しましたが、収益性の高い自社製品の売上高が増加したこと等により経常利益は前年同期比64.2%増となりました。
- 3 親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比66.7%増となりました。

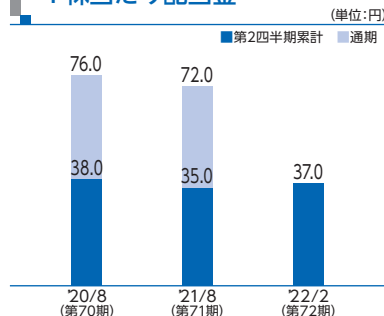
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益



1株当たり四半期(当期)純利益



1株当たり配当金



ごあいさつ

株主の皆さまには、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに第72期中間報告書（2021年9月1日から2022年2月28日まで）をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。

さて、当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症のワクチン接種率の上昇や行動制限の緩和等により、企業の生産活動や個人消費に持ち直しの動きが見られましたが、新たな変異株の感染再拡大により、依然として先行き不透明な状況となりました。

当社グループの主要ユーザーである自動車業界におきましては、コロナ禍から回復基調ではあるものの、世界的な半導体不足の長期化や新型コロナウイルスの感染拡大に伴う部品の調達難により、減産を余儀なくされました。設備投資については、日本国内では厳しい状況が続きましたが、海外では中国を中心に総じて堅調に推移しました。

このような事業環境のなか、当社グループにおきましては、受注済みの大型プロジェクトを着実に進めるとともに、今後急拡大が見込まれる車載電池市場のニーズに対応するため、本年2月に電池部品開発課を設置するなど、業容の拡大に取り組んでまいりました。

その結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は371億62百万円（前年同期比29.4%増）、経常利益は30億6百万円（前年同期比64.2%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は20億21百万円（前年同期比66.7%増）と期初の連結業績予想を大きく上回る結果となり、第3次中期経営計画2年目の目標達成に向けた足がかりを築くことができました。



今後の見通しにつきましては、景気持ち直しの動きが期待されますが、新型コロナウイルス感染の再拡大への懸念やウクライナ情勢悪化の長期化により、先行きは不透明な状況が続いており、厳しい経営環境が続くものと予想されます。

当社グループでは、引き続き第3次中期経営計画に掲げる重点戦略を着実に実行し、目標達成に向けて全社一丸となって取り組んでまいります。

株主の皆さまには、今後とも一層のご支援を賜ります様、よろしくお願い申し上げます。

2022年5月
代表取締役社長 根本 哲夫

電池部品開発課の設置

2022年2月1日付で電池関連事業に特化した電池部品開発課を設置いたしました。今回は、電池部品開発課のメンバーの方に、課設置の目的、これまでの電池関連事業の実績、具体的な活動についてお話をうかがいました。



Question & Answer

Q 電池部品開発課設置の目的は何ですか？

A. 主要ユーザーである自動車メーカーは、電気自動車（EV）シフトに伴う車載電池の大型投資を計画しており、当社はこうした動きに迅速に対応するため、電池関連事業に特化した部署を設置しました。



Q これまでに電池関連事業の実績はありますか？

A. 過去に、ニッケル水素の角型電池の開発に参画し、10年以上の長期にわたって電池部品である集電板を生産した実績がある他、電池の組み立てライン等の生産設備を納入した実績があります。

Q 進和の接合技術が電池製造の開発に役立つのですか？

A. 電池製造工程では、レーザ溶接が多岐に渡り使用され、欠かせない技術です。これまで当社では、最新のレーザ設備を導入し、お客様の様々なトライ・評価をお手伝いしてきました。また、樹脂や金属など異種材料を接合する技術が、電池の軽量化や高強度化を実現する技術として注目されています。こうした技術も進和グループで蓄積してきましたので、電池の開発に役立てることができず。



Q 具体的にはどのような活動に取り組めますか？

A. 電池関連の開発テスト、適応テストに加え、生産設備の提案を行います。また、これまでの経験や技術を活かし、電池部品の量産受注を見据えた活動を実施します。

SHINWA
TOPICS
02メンテックセンター
九州工場移転

2021年10月、メンテナンス事業拡大と従業員の働く環境改善を目的に、メンテックセンター九州工場を同じ九州市内の小倉北区赤坂海岸から西港町に移転しました。工場面積は約350坪と、従来の約2倍の広さがあります。単軸スクリー補修事業を中心に新規提案と受注につなげ、西日本地区の業容拡張に取り組みます。

SHINWA
TOPICS
03

浜松営業所移転

2021年11月、今後の事業拡大とWEB会議などリモート対応可能な環境整備を図るため、従来の約3倍（約90坪）の広さとなる事務所へ移転しました。新事務所は浜松市南区増楽町にあり、主要顧客が浜松市西部に集中している立地を活かして、お客様とのコミュニケーションを充実させることで、さらなる業容拡大を目指します。



業績の状況

セグメント別売上高・利益

中国

◎ 売上高	9,849百万円
◎ セグメント利益	995百万円

日系自動車メーカー向けに生産工場の能力増強に伴う生産設備（二つの大型プロジェクト）の売上を計上したことなどにより、売上高は98億49百万円（前年同期比146.3%増）、セグメント利益は9億95百万円（前年同期比150.3%増）となりました。

米国

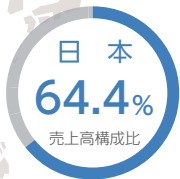
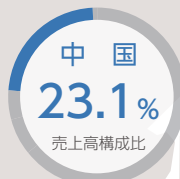
◎ 売上高	2,800百万円
◎ セグメント利益	124百万円

メキシコの日系自動車メーカー向け生産管理システムの売上計上や日系自動車メーカー・同部品メーカー向けに溶接材料の売上が堅調に推移したことなどにより、売上高は28億円（前年同期比19.4%増）、セグメント利益は1億24百万円（前年同期比140.1%増）となりました。

その他

◎ 売上高	273百万円
◎ セグメント利益	19百万円

チェコの日系自動車メーカー向けに生産管理システムの売上等を計上しましたが、売上高は2億73百万円（前年同期比9.9%減）、セグメント利益は19百万円（前年同期比50.8%減）となりました。



東南アジア

◎ 売上高	2,259百万円
◎ セグメント利益	238百万円

タイでは日系自動車メーカー向けおよび日系空調機器メーカー向け生産設備の売上を計上したことや、インドネシアでは日系自動車メーカー向けに溶接設備・材料の売上が伸長したことなどにより、売上高は22億59百万円（前年同期比13.9%増）、セグメント利益は2億38百万円（前年同期比20.7%増）となりました。

日本

◎ 売上高	27,477百万円
◎ セグメント利益	1,611百万円

主に日系自動車部品メーカー向けに溶接設備・材料の売上が増加したことや中国の半導体・エレクトロニクスデバイスメーカー向けに自社製品の超精密塗布装置の売上が大きく伸長したことにより、売上高は274億77百万円（前年同期比14.3%増）、セグメント利益は16億11百万円（前年同期比41.1%増）となりました。

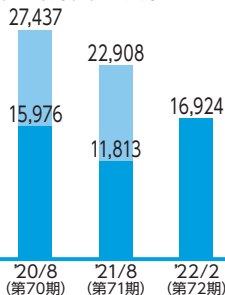
※セグメント別の売上高は、セグメント間の内部売上高を含めて記載しております。

品目別売上高 (単位:百万円)

金属接合

広範囲にわたる商製品と接合技術により
量産体制をトータルにサポート

■ 第2四半期累計 ■ 通期

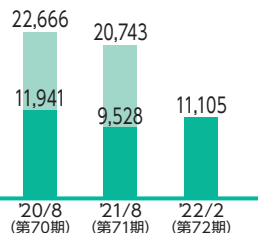


金属接合
45.5%
売上高構成比

産業機械

自動車、電気機器などの製造ラインを構成する
各種産業機械をワンストップで提供

■ 第2四半期累計 ■ 通期

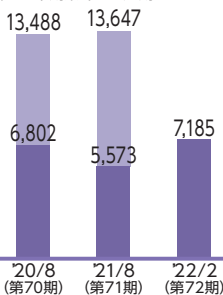


産業機械
29.9%
売上高構成比

FAシステム

産業設備用制御機器や生産管理システム
など、モノづくりの環境全体を最適化

■ 第2四半期累計 ■ 通期

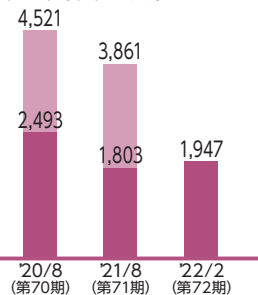


FAシステム
19.3%
売上高構成比

メンテナンス・その他

鍛造・板金プレスをはじめとする各種機械
装置・機械部品をメンテナンス

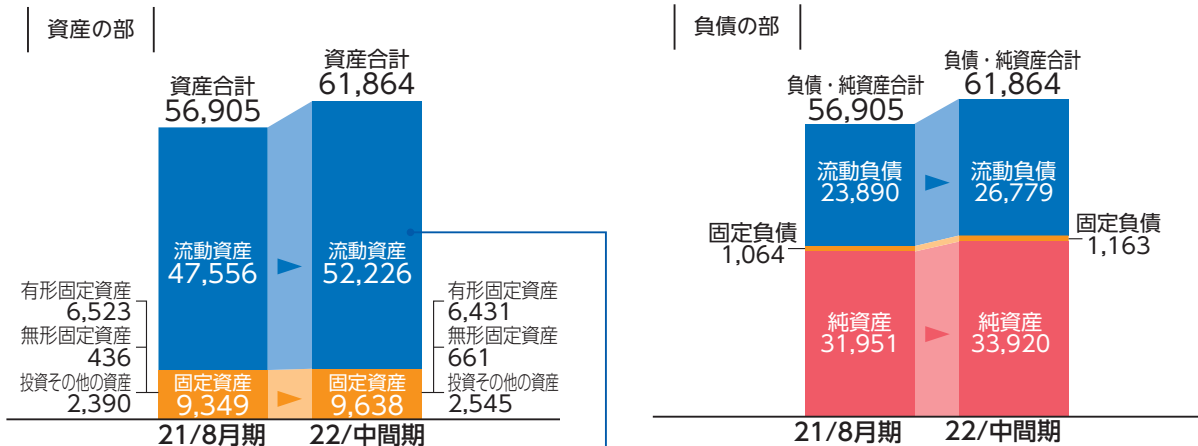
■ 第2四半期累計 ■ 通期



メンテナンス・
その他
5.2%
売上高構成比

財務情報 (第2四半期)

連結貸借対照表の概要 (単位:百万円)

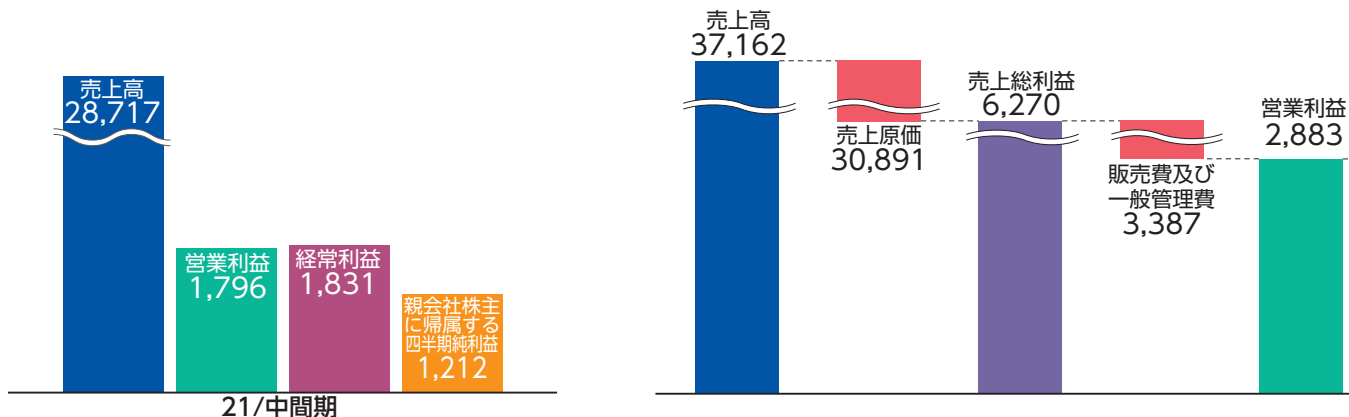


POINT

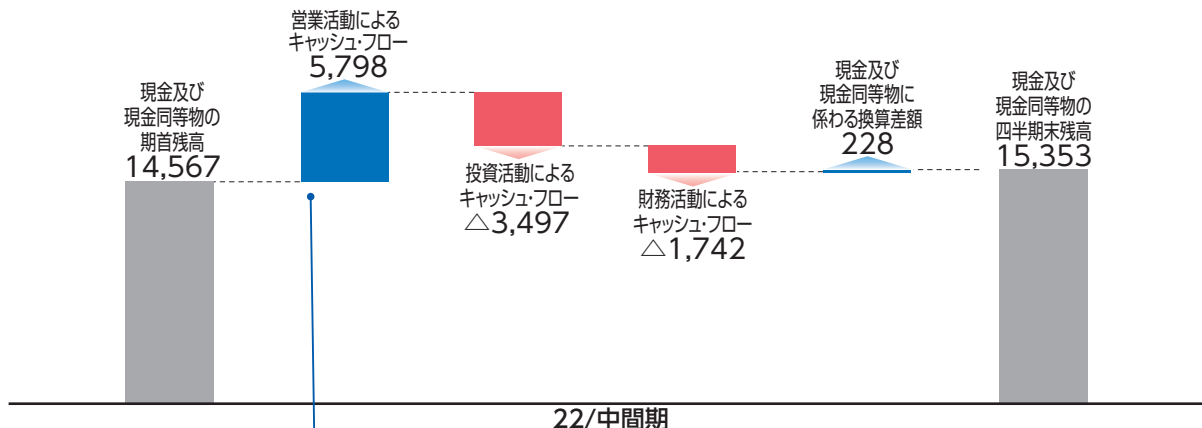
流動資産は前連結会計年度末に比べ46億70百万円増加し、52億26百万円となりました。これは主に商品及び製品が10億96百万円、原材料及び貯蔵品が3億32百万円、前渡金の減少等により流動資産のその他が10億22百万円減少しましたが、現金及び預金が37億89百万円、受取手形及び売掛金が17億33百万円、電子記録債権が1億56百万円、仕掛品が14億42百万円増加したことによるものであります。

流動負債は前連結会計年度末に比べ28億89百万円増加し、26億79百万円となりました。これは主に電子記録債務が1億44百万円、短期借入金が11億97百万円減少しましたが、支払手形及び買掛金が1億74百万円、未払法人税等が3億71百万円、前受金が33億56百万円、引当金が32百万円、未払消費税等の増加等により流動負債のその他が2億97百万円増加したことによるものであります。

連結損益計算書の概要 (単位:百万円)



□ 連結キャッシュ・フロー計算書の概要 (単位:百万円)

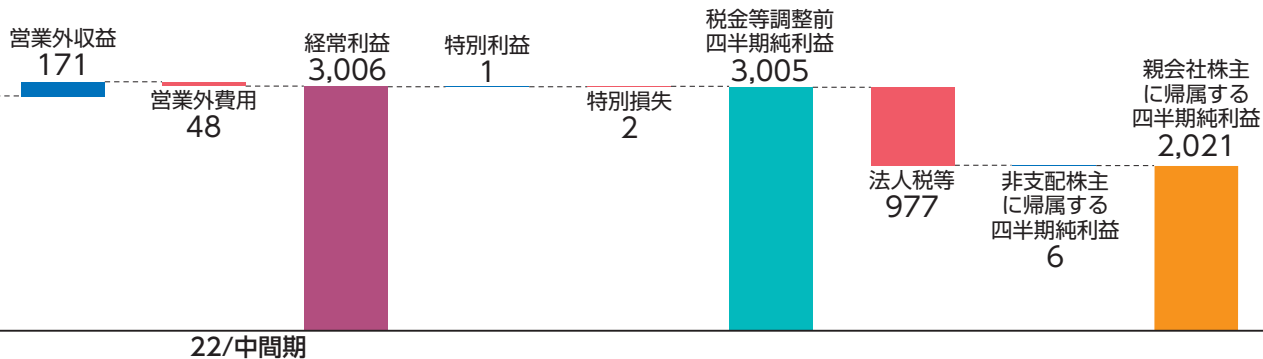


POINT

営業活動の結果得られた資金は、57億98百万円（前年同期は20億72百万円の収入）となりました。これは主に売上債権の増加額16億53百万円、仕入債務の減少額2億30百万円により資金が減少しましたが、税金等調整前四半期純利益30億5百万円、前受金の増加額30億1百万円により資金が増加したことなどによるものであります。

POINT

主に中国において日系自動車メーカー向けに生産工場能力増強に伴う生産設備（二つの大型プロジェクト）の売上計上や中国の半導体・エレクトロニクスデバイスメーカー向けに自社製品の超精密塗布装置の売上が大きく伸長したことにより、増収増益となりました。



□ 会社概要 (2022年2月28日現在)

社名	株式会社進和
英文社名	Shinwa Co., Ltd.
本社	名古屋市守山区苗代 2-9-3
設立	1951年2月12日
資本金	951,106,400円
当社グループ 全従業員数	872名 (当社および連結対象子会社 838名)
主要な 事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・金属接合関連商品および製品の販売 ・産業機械関連商品および製品の販売 ・FAシステム関連商品および製品の販売 ・特殊溶接技術を要する補修工事および各種機械装置の修理工事 ・自動車部品の樹脂製品の販売

□ 事業拠点 (2022年2月28日現在)

本社
本社(名古屋市)

営業部・営業所

東京営業部(東京都) 大阪営業部(大阪市)
大宮営業部(さいたま市) 九州営業部(北九州市)
北海道営業所(苫小牧市) 東北営業所(仙台市)
静岡営業所(静岡市) 浜松営業所(浜松市)
広島営業所(広島市)

国内工場

メシテックセンター
名古屋工場(豊田市) 九州工場(北九州市)
ジョイテックセンター(名古屋市)
FAシステムセンター(名古屋市)
メカトロシステムセンター(名古屋市)

国内子会社

◆株式会社 ダイシン(名古屋市) ◆株式会社 進栄(愛知県東郷町)
◆株式会社 アイシン(名古屋市)

□ 役員 (2022年2月28日現在)

代表取締役社長	根本 哲夫
社長執行役員	
取締役専務執行役員	瀧谷 善郎
取締役常務執行役員	石川 修示
取締役上席執行役員	濱田 弘樹
取締役上席執行役員	加藤 清
取締役上席執行役員	大倉 守彦
取締役(非常勤)	加川 純一
監査等委員(常勤)	茂木 恒有
監査等委員(非常勤)	内藤 正明
監査等委員(非常勤)	志賀 慶章

(注) 社外取締役加川純一、内藤正明および志賀慶章の3氏は、独立役員であります。

海外子会社

- ◆SHINWA U.S.A. CORPORATION(米国)
- ◆SHINWATEC LIMITED(英国)
- ◆SHINWA INTEC Co., Ltd.(タイ)
- SHINWA(INDIA)ENGINEERING & TRADING PRIVATE LIMITED(インド)
- ◆SHINWA REPRESENTAÇÃO COMERCIAL DO BRASIL LTDA.(ブラジル)
- ◆PT. SANTAKU SHINWA INDONESIA(インドネシア)
- ◆SHINWA INTEC MALAYSIA SDN. BHD.(マレーシア)
- SHINWA ENGINEERING S.A. de C.V.(メキシコ)
- ◆那欧雅進和(上海)貿易有限公司(中国)
- ◆煙台進和接合技術有限公司(中国)
- ◆煙台三拓進和攪拌設備維修有限公司(中国)
- ◆進和(天津)自動化控制設備有限公司(中国)

(注) ◆印は連結子会社であります。

□ 株式の状況 (2022年2月28日現在)

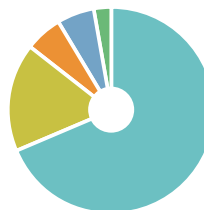
- ▶ 発行可能株式総数 23,100,000株
- ▶ 発行済株式の総数 14,415,319株
(自己株式1,051,177株を含む)
- ▶ 株主数 6,954名

□ 大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,440	10.8
進和取引先持株会	470	3.5
進和従業員持株会	429	3.2
根本哲夫	425	3.2
加藤嘉一	424	3.2
東朋テクノロジー株式会社	400	3.0
根本完治	379	2.8
加藤皓己	334	2.5
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	283	2.1
岸 直人	268	2.0

(注) 持株比率は、自己株式を除く発行済株式の総数に対する持株数の割合であります。

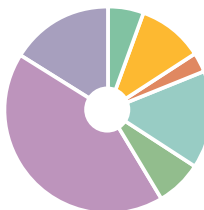
□ 所有者別分布状況



- 個人・その他 65.7%
- 金融機関 17.0%
- その他の法人 6.4%
- 外国法人等 8.4%
- 金融商品取引業者 2.5%
- 政府・地方公共団体 0.0%

※「個人・その他」に自己株式1,051千株が含まれております。

□ 所有数別分布状況



- 1千株未満 5.7%
- 1千株以上 10.0%
- 5千株以上 3.3%
- 10千株以上 14.5%
- 50千株以上 8.6%
- 100千株以上 40.6%
- 500千株以上 17.3%

※「500千株以上」に自己株式1,051千株が含まれております。

株主優待制度のご案内

当社は、株主の皆さまのご厚情に対し感謝を込めて、毎年1回、株主優待を実施しています。

- 割当基準日** 毎年8月31日(年1回)
- 贈呈基準** 所有株式数 100株(1単元)以上所有の株主の皆さま
- 内容・贈呈方法**
- 所有株式数 1,000株以上
 - 魚沼産コシヒカリ(5kg 1袋)
 - 11月下旬から12月上旬にかけて宅配便にてお届けします。
 - 所有株式数 100株以上
 - おこめギフト券(1kg相当 2枚)
 - 期末の報告書の発送に同封させていただきます。



魚沼産コシヒカリ



おこめギフト券

事業年度	毎年9月1日から翌年8月31日まで
定時株主総会	毎年11月
基準日	定時株主総会 毎年8月31日 期末配当金 毎年8月31日 中間配当金 毎年2月末日 そのほか必要があるときはあらかじめ公告して定める日
単元株式数	100株
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同 連 絡 先	東京都府中市日鋼町1-1 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 TEL.0120-232-711 (通話料無料)
同 郵 送 先	〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
上場証券取引所	東京証券取引所プライム市場・名古屋証券取引所プレミアム市場
公告方法	電子公告（当社ホームページに掲載） ※やむを得ない事由により電子公告が出来ない場合、日本経済新聞に掲載

☐ ホームページのご案内

当社では、株主・投資家の皆さまと、より良いコミュニケーションを図るため中期経営計画や決算発表資料などのIR情報をホームページにて公開しております。

是非、ご覧ください。

トップページ◎



IRページ◎



☐ パソコン・スマートフォン

<https://www.shinwa-jpn.co.jp/>

株式会社進和

検索



〒463-0046 名古屋市守山区苗代2-9-3

TEL (052) 796-2533

URL <https://www.shinwa-jpn.co.jp/>

UD FONT

見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。

